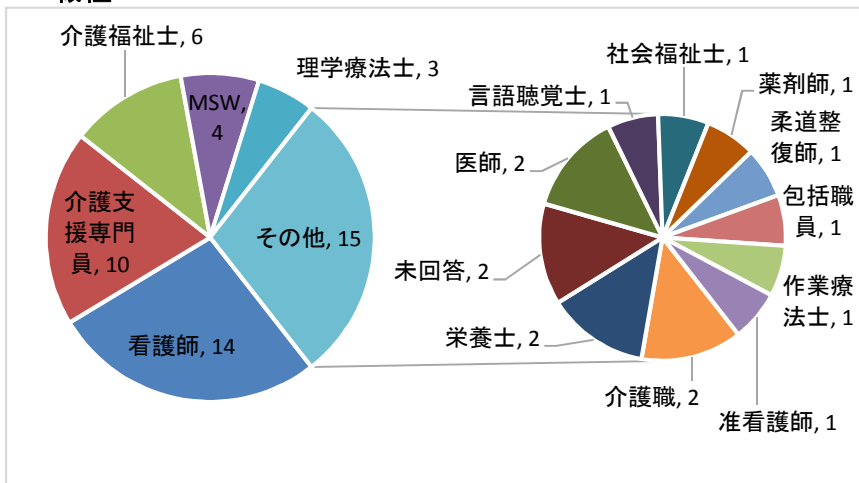


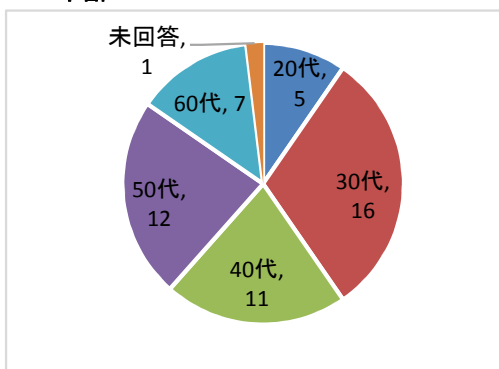
# 絆研修アンケート結果（第2回絆研修①:H30. 1. 21）

研修参加者53人アンケート回収52人 回収率98%

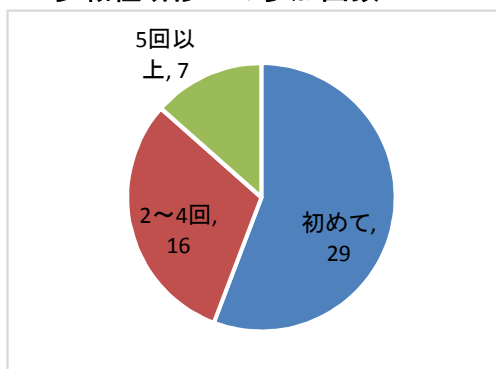
## 1. 職種



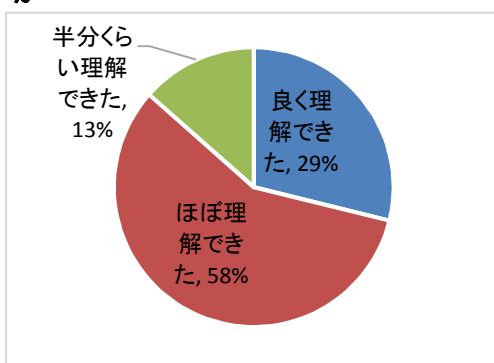
## 2. 年齢



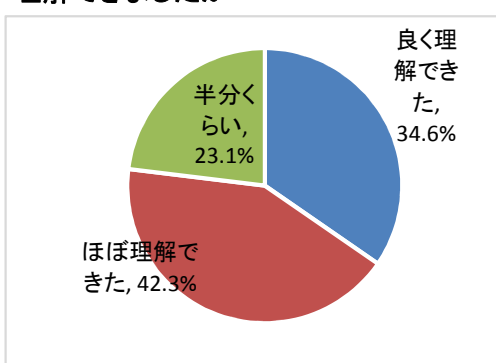
## 3. 多職種研修への参加回数



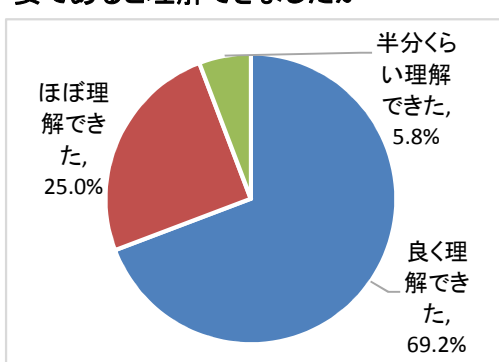
## 4. 地域包括ケアについて理解できましたか



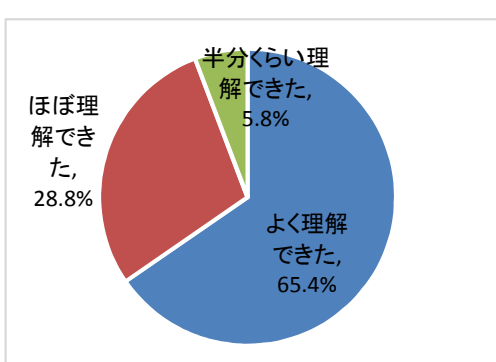
## 5. 退院から在宅支援の多職種の役割が理解できましたか



## 6. 退院前カンファレンスが退院支援に重要であると理解できましたか



## 7. 価値観の多様性を理解し、本人を尊重した合意形成を行うことが大切であると理解できましたか



## 8. 研修の評価(5段階)

### ①研修時間

評価	人数
1 (長い)	3
2 ↓	9
3 ↓	34
4 ↓	3
5 (短い)	2
未回答	1
<hr/>	
52	

### ②難易度

評価	人数
1 (難しい)	2
2 ↓	10
3 ↓	33
4 ↓	3
5 (やさしい)	3
未回答	1
<hr/>	
52	

### ③積極的に参加できたか

評価	人数
1 (できた)	16
2 ↓	17
3 ↓	15
4 ↓	4
5 (できなかった)	0
<hr/>	
52	

### ④ファシリテータの仕事ぶり

評価	人数
1 (よかった)	22
2 ↓	18
3 ↓	12
4 ↓	0
5 (悪かった)	0
<hr/>	
52	

## 9. 改善点(自由記載)

- ・グループワークの設定がもう少し具体的でないと話し合いにくい。
- ・それぞれの専門性を活かした話し合いをするために、多職種になりきってグループワークをするのではなく、多職種がどのような役割を果たすことができるのか、活動参加へつなげるための問題点解決方法を話し合う方が良いのではないか。
- ・グループワークが多い印象。事例報告として、スライド等で実際のケースを紹介してもらうとともに、発表者から気を付けた点を教えてもらう等の方法はいかがでしょうか？
- ・基本情報がなく役を演じきれなかったのが残念
- ・事例の家族の住宅環境に家の見取り図があったらより具体的に想像できた
- ・時間が短く話が十分にできなかった。
- ・グループワークの時間を状況を見て2～3分延ばしてもらえるとまとめやすかった。
- ・時間(グループ、意見交換)的に急かされているようであった。

## 10. その他

- ・分かり易く学ぶことができた。
  - ・勉強になりました。ありがとうございました
  - ・良くわからないまま参加したが、良い経験をさせていただきました。
  - ・また参加したい。毎回様々な意見をいただき、これからも頑張りたい。
  - ・色々な専門職の方の意見が聞けて良かった。人前での発表が必要とされることが学べた。
  - ・多職種の体験がとても良かった。ぜひ職場に持ち帰って活かして行きたいと思います。ありがとうございました。
  - ・多職種の顔が見え、ご意見が聞ける研修でとても勉強になった。
  - ・講義内容は良かった。
  - ・初めて参加し、このように多職種の方との交流でお互いの専門職としての役割が理解できた。
  - ・多職種になりきるプログラムがあり珍しかった。良いと思う。
  - ・今回は連携がテーマだったので特に問題ないかと思いますが、情報記録書に食事摂取内容がソフト食とあり、このままでは退院には支障があるのでは?と思った。嚥下状態に関しての詳しい情報はないが、可能であれば退院までに在宅で実現可能な食携帯までUPできるよう栄養士としては支援したいと思う。
  - ・介護士さんにも来ていただいた方が良いのではないかと?施設スタッフにも来てほしい。現保険制度の問題点や、こうすればよい?という改善案等の意見を聞きたい。医療保険サービススタッフが考えている退院支援と在宅サービススタッフの考える支援をギャップについての話し合いもしたい。
  - ・1人1人の意見を聞く時間が少なかった。もっとフリートークをする時間があっても良いのでは?日頃の自分たちの場面など。
  - ・ファシリテーターの話ばかりでもう少し病院の先生の話が聞きたかった。多職種連携はとても良かったです。
  - ・修了者からのコメントは代表者1名でも良いのでは。
  - ・天気が良くて良かったですね
  - ・包括ケアのシステムで質問:最近「インフルエンザA型」と診断された方がいましたが、平日の午前中で家族は仕事、他の家族は病気で対応不可。この場合、かかりつけ医から一時入院(インフルエンザの間のみで療養は4, 5日)への照会が行える市内の(療養)入院先が現実としてあるのでしょうか?
- 本人と子供の実の2人家族の世帯も多く、働く世代の男性が急に休暇を取ることが難しい場合、入院は最良の道であるのかもしれませんが。